

令和6年度 北多摩南部地域保健医療協議会地域医療システム化推進部会 会議録

【日時】 令和7年2月3日（月曜日）午後1時31分から午後2時50分まで

【会場】 東京都多摩府中保健所 5階 講堂

【出席委員】 18名（欠席委員 1名）

職 名	氏 名	備 考
武蔵野市医師会会長	中 嶋 伸	
三鷹市医師会会長	内 原 正 勝	
府中市医師会理事	櫻 井 誠	欠席
調布市医師会	西 田 伸 一	
小金井市医師会会長	小 松 淳 二	
狛江市医師会副会長	片 山 隆 司	
府中市歯科医師会会長	金 森 泰	
府中市薬剤師会会長	中 村 徳 浩	
武蔵野赤十字病院長	黒 崎 雅 之	
杏林大学医学部付属病院長	近 藤 晴 彦	
東京都立多摩総合医療センター院長	檜 山 鉄 矢	
東京慈恵会医科大学附属第三病院長	古 田 希	代理出席
杏林大学医学部付属病院副院長・看護部長	根 本 康 子	
杏林大学医学部准教授	吉 田 正 雄	
公募委員（三鷹市）	横 山 美 枝	
府中消防署長	沼 尾 昭 仁	代理出席
三鷹市健康福祉部長	小 嶋 義 晃	代理出席
狛江市福祉保健部長	宗 像 秀 樹	
多摩府中保健所長	田 原 なるみ	

（敬称略）

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 保健所長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議 事
 - （1）医療連携推進事業について
 - （2）医療安全支援対策事業について
 - （3）口腔保健分科会報告について
 - （4）北多摩南部地域保健医療推進プラン 進行管理について
- 5 報告事項
 - （1）健康危機管理対策について
 - （2）災害対策について
- 6 閉 会

令和6年度 北多摩南部地域保健医療協議会
地域医療システム化推進部会（医療安全推進分科会）

令和7年2月3日

開会：午後1時31分

【原田歯科保健担当課長】 お待たせいたしました。定刻を少し過ぎてしまいましたが、これから令和6年度北多摩南部地域保健医療協議会地域医療システム化推進部会を開催させていただきます。

皆様には、大変お忙しい中御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日はオンラインでの開催となっております。途中、不具合等が生じる可能性がございますが、御容赦いただければと思います。

私は、多摩府中保健所歯科保健担当課長の原田と申します。議事に入るまでの間、進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の会議は公開となっております。会議録は、後日、多摩府中保健所のホームページに掲載いたします。

本日は、委員の皆様全員ウェブでの御出席となっております。途中、音声等が聞き取れないなど不具合が生じましたら、チャットで御連絡をお願いいたします。また、カメラをオン、マイクをミュートで設定をお願いします。御発言いただきます際には、ウェブの挙手ボタンを押していただき、御指名を受けてからの御発言をお願いいたします。

続きまして、会議資料を確認させていただきます。会議次第の下にあります資料一覧のとおりとなっておりますので、御確認ください。

続きまして、多摩府中保健所所長、田原より御挨拶をさせていただきます。

【田原保健所長】 皆様、こんにちは。保健所の田原でございます。委員の皆様には大変お忙しい中、当部会に御出席賜りまして、誠にありがとうございます。また、日頃より保健所の様々な事業につきまして御協力をいただいていること、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、昨年7月に地域保健医療協議会において皆様から御意見を頂戴いたしましたプランの改定につきましては、おかげさまで予定どおり9月末に公表することができました。当圏域の保健医療福祉分野を代表される皆様から、昨年2月、3月、そして7月、部会、協議会と複数回にわたり貴重な御意見を頂戴して、圏域として今後6年間の取組の方向性をま

とめることができました。この間の皆様の御尽力に改めて感謝申し上げます。今後は、圏域の皆様と関係機関の皆様とともにプランの取組を進めてまいり所存でございますので、引き続き御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日の会議では、新たなプランの取組と指標を踏まえて、医療連携・医療安全分野に係る取組を説明させていただくとともに、昨年10月に開催いたしました口腔保健分科会の報告もさせていただきます。また、このたび新たなプランには、新型コロナウイルス感染症対応や、度重なる災害対応を踏まえた取組を盛り込んだところでございます。当所としても今年度よりこれらの課題への取組を進めているところで、後半ではそれらの報告をさせていただきたいと思っております。限られた時間ではございますけれども、多くの委員の皆様の御意見を伺えればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

【原田歯科保健担当課長】 ありがとうございました。

続きまして、委員の皆様の御紹介ですが、7月に開催しました協議会で皆様の御紹介をさせていただいておりますので、お手元の委員名簿を御参照いただければと思います。

代理出席、欠席の委員の御紹介をさせていただきます。

まずは、代理出席のご紹介です。慈恵第三病院、峰事務部長様。

府中消防署、長谷川警防課長様。

三鷹市、白戸健康推進課長様。

続きまして、欠席の委員の御紹介です。府中市医師会、櫻井委員様。

保健所の委員につきましても、座席表のとおりとなっております。

それでは、議事に入らせていただきますが、田原部会長に進行をお願いしたいと思います。田原部会長、どうぞよろしく願いいたします。

【田原部会長】 改めまして、田原でございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

本日の地域医療システム化推進部会は医療安全推進分科会を兼ねて開催いたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

議事1、医療連携推進事業について、事務局より説明をお願いします。

【原田歯科保健担当課長】 医療連携推進事業につきまして、原田より御説明をさせていただきます。

まずは資料1-1の糖尿病医療連携推進事業を御覧ください。

この事業では、地域の実情に即した糖尿病医療連携体制を構築するため、北多摩南部保健医療圏糖尿病医療連携検討会を設置し、検討しております。検討会の事務局業務は、管内の4つの中核病院に輪番で委託して運営していただいております。今年度は東京慈恵会医科大学附属第三病院様にお願いしております。

資料の1枚目に今年度の取組を、裏面には今までの取組の経過を時系列に示しております。

今年度は、1型糖尿病の普及啓発をテーマとして掲げ、座長の藤本先生を中心に、取組を進めております。資料3ページ目にチラシをおつけしておりますが、世界糖尿病デーに合わせて11月に実施した糖尿病予防フェスタでは、治療に携わる医師・看護師の立場からの講演とともに、1型糖尿病を患いながら野球選手として御活躍されました岩田様に御講演いただくという、とても充実した内容となりました。また、年度末には検討会の開催や糖尿病災害対策講演会等も実施予定です。

簡単ではございますが、糖尿病医療連携事業についての御説明は以上です。

続きまして、脳卒中医療連携推進事業について御説明いたします。資料1-2を御覧ください。

この事業では、北多摩南部保健医療圏における脳卒中疾患に関する医療について、身近な地域で適切な医療が受けられるよう、地域において急性期から回復期、在宅医療に至るまでの切れ目のない医療・介護サービスを受けることができる仕組みの構築を目指し、北多摩南部保健医療圏脳卒中医療連携検討会を設置し、体制づくりに必要な事項について検討を行っております。

検討会の事務局は、北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会の事務局でもあります武蔵野赤十字病院様に継続して委託し、運営していただいております。今年度も、座長の秋元先生を中心に、多職種において、切れ目のない脳卒中患者支援に向けて、検討会の開催や、脳卒中ネットワーク研究会、多職種研究会、市民公開講座と幅広く実施していただいております。詳細につきましては、資料のチラシを御覧いただけますと幸いです。

簡単ではございますが、脳卒中医療連携事業についての説明とさせていただきます。以上です。

【田原部会長】 ありがとうございました。

今、医療連携事業として糖尿病と脳卒中医療連携について続けて説明をしてもらいましたけれども、特にこれについて御意見などはいかがでしょう。

よろしゅうございますでしょうか。それでは、先に進めさせていただいて、また後ほどお伺いしたいと思います。

では、続きまして、議事2、医療安全支援対策事業について、説明をお願いいたします。

【原田課長代理】 それでは、議事2の医療安全支援対策事業について、管理課保健医療担当の原田から御説明させていただきます。

まず、資料2-1を御覧ください。この資料は、「患者の声 お届けします」とありますように、保健所に設置する患者の声相談窓口のことで、令和5年度実績となっております。

図1は、令和元年度からの相談件数の推移をグラフでお示ししたのですが、各年度ともおおむね600件から700件台で推移しているところで、令和4年度だけ837件と突出しており、令和5年度には再び645件とほぼ例年の件数に戻りました。

また、2ページ目の図1-1の相談・苦情内容の年次推移を見てみますと、オレンジ色の折れ線の健康や病気に関する相談の件数は、新型コロナの流行が始まった令和2年度から少しずつ増加し、令和4年度には急増しましたが、その翌年の令和5年度には例年並みの件数に戻りました。

この健康や病気に関する相談件数の推移について考えてみました。新型コロナが流行し始めた令和2年度以降、社会全体としても不要不急の外出の抑制が求められ、個人としても、コロナ以外の病気やけがなどで受診したいけれども、感染リスク等の懸念から受診を我慢してしまういわゆる受診控え等が広がった時期がありました。また、受診控えとは反対に、医療体制の逼迫などの影響か、コロナ以外の病気で受診したいけれども、どこで受診させてもらえるのかといった医療機関の紹介・案内に関する相談が令和3年度は増えました。その後、令和4年度に至り、社会全体としての行動制限なども緩和され、コロナ以外での受診控えなども減ったようで、これまで受診を控えていた方々の様々な不調による相談が、令和4年度の相談件数を押し上げた一因になっているのではないかと考えられます。

そのほか、令和5年度の詳細につきましては、資料を御覧いただければと思います。

また、この資料は、各医療機関において患者対応等の参考にしていただくため、毎年、圏域内の全医療機関に配付しております。

医療安全支援対策事業では、患者の声相談窓口とともに、講演会や、院内感染対策担当者や医療安全推進担当者を対象とした連絡会を行っております。

資料2-2を御覧ください。こちらは3月に実施予定の講演会のチラシです。弊所としては初めてACP（Advance Care Planning）をテーマといたしました。杏林大学の河野隆志

先生、角田ますみ先生を講師としてお招きいたしまして、自分らしい人生の意思決定の在り方について御講演いただく予定となっております。

次に、資料2-3を御覧ください。こちらの資料は、今年度実施した有床診療所への立入検査の実施状況でございます。

当圏域には現在15か所の有床診療所がございます。各年度5施設ほど調査を行いまし、約3年で全施設の調査を行えるように実施しております。今年度は11月から1月にかけて5施設を調査しました。航空自衛隊府中基地医務室は、前年度予定でしたけれども、能登半島地震の災害派遣の対応のために延期し、今年度実施いたしました。

医療安全支援対策事業については以上となります。

【田原部会長】 ありがとうございます。

今の説明につきまして、御質問、御意見などございましたらお願いいたします。

医療安全の講演会の関係でACPを取り上げさせていただいておまして、杏林大学の河野先生、角田先生に大変お世話になっておりますけれども、杏林大学の近藤委員、何か御意見がございましたら、一言お願いできますでしょうか。

【近藤委員】 お世話になっております。杏林大学病院の近藤です。

この高齢化社会を踏まえまして、ACPというのは社会全体として重要なことになっているかと思えます。ただ、そういった情報が医療機関、特に救急もやっております、あるいはがんの末期の患者さんも多い、そういう診療をやっております当院なども含めまして、十分それを受け入れて情報共有することができていないというのは、我々の側の問題もあるかなと思っております。そういう形で、一昨年から院内にACP推進チームというものをつくりまして、角田先生や河野先生にいろいろ院内の講演会でそういった意識をしっかりと持つことを今図っているところではありますが、そもそも地域の皆さんが人生の最後について考える機会を持っていないというのが一番問題かなと思えますから、そういったところからいろいろ周知して、皆さんがそういった場を持っていく、それからその後どうやって医療機関あるいは福祉の施設、いろいろなところがその情報を共有するか、そういう形を構築していくのが大事かなと思っております。そういう活動の一環として講演会のお手伝いをさせていただくことになりましたので、どうぞよろしくをお願いいたします。

【田原部会長】 近藤委員、ありがとうございます。東京都においても来年度の新規事業の予算化も発表になっておりましたので、私どもとしても引き続き周知を考えてまいりたいと思っております。先生、ありがとうございます。

では続きまして、議事3、口腔保健分科会の報告について、よろしくお願ひいたします。

【原田課長代理】 議事3の口腔保健分科会について報告させていただきます。資料3を御覧ください。

口腔保健分科会は、システム化推進部会の分科会として、令和6年10月17日に開催しました。

最初に(1)の圏域の歯科保健状況について御報告させていただきました。具体的には、令和5年度の多摩府中保健所歯科保健事業報告、次に令和5年度の保育所幼稚園等歯科健診結果調査、次に圏域における幼児期・学齢期の状況について報告しております。これらの報告に対する御意見として、虫歯の罹患率は減少しているが、虫歯のない子と、ある子の二極分化があり、ハイリスク児への対応が課題であること、また、特に中学生で歯肉炎や歯周病が増える傾向にあるため、自分で磨く年代である小中学校での指導や、自分の口を健康管理できる力を養う教育が大事との御意見をいただきました。

次に(2)の東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」について報告しております。「いい歯東京」は令和6年3月に一時改定しており、改定の3つのポイントと4本の計画の柱について説明しました。重点項目として「健康危機(大規模災害時)に対応した歯科保健医療対策の推進」が追加されましたので、各市より災害時歯科保健活動マニュアルの整備状況について情報提供をいただきました。また、在宅歯科医療体制の整備については、より一層医科歯科連携を進めていくことが大きな課題であること、災害時歯科保健対策について、各市とも災害時歯科マニュアル等の整備は今後検討していきたいとの御意見をいただきました。

次に(3)東京都北多摩南部地域保健医療推進プランについて報告しております。今年度改定したプランについて説明させていただきました。圏域として歯科保健医療の取組が進むよう、関係機関の皆様の取組内容や今後の方向性についてなど、御意見をいただきました。

口腔保健分科会の御説明については以上となります。

【田原部会長】 ありがとうございます。

ただいまの御説明について、何か御意見、御質問はございますでしょうか。

分科会にも御出席いただきました府中市歯科医師会の金森委員、災害時の歯科など、歯科保健の課題について何か御意見をいただけましたらありがたく思います。よろしくお願ひいたします。

【金森委員】 府中市歯科医師会の金森です。よろしくお願ひします。

報告にございましたように、圏域の健診状況は、本当に驚くほどお子さんの虫歯罹患率が

減っております。これはいろいろな要因がございますが、まずは親御さんを含めて、大人の口からいわゆるミュータンス菌が子供のほうに入っていくところで、まず親の理解、その辺りの周知徹底がされている、親と子の分離ですね。共有のお箸を使ったりしないという、もう当たり前のことなのですが、その辺りがまず徹底されていることと、フッ化物の含まれた歯磨剤の使用というところが大きい部分だと思います。これは、この状態を維持していきたいと思います。

その反面、報告にございましたように、歯周病が、またそれは違う理由なのですが、中学生以降かなり増えてきているというところ。ここは分析がいろいろございますけれども、まずは親の手から離れた自らの口腔ケアがその辺も不十分であるというところ、この辺りを歯科医師会としてもさらに周知徹底して指導してまいりたいと思います。

もう一つ、府中市においても課題になっているのが災害時の歯科。果たしてどのように歯科として協力できるのかというところがいま一つ整理されていない部分がありまして、今後、医歯薬、あとは行政、保健所等とその辺りは協議しながら、何とかマニュアル等の作成も含めて進めていきたいと思います。

それとあと、もう少ししゃべってよろしければ、もう少し歯科の重要性といいましょうか、何か強力な連携ができないかということで、皆さんには釈迦に説法になってしまうのですが、高血圧症もそうなのですが、糖尿病と誤嚥性肺炎の問題、ここがかなり歯科のほうは協力がさらにできるのではないかと考えています。高血圧により、例えば高血糖によりまして唾液の分泌が減ると、口腔内が乾燥いたします。唾液の分泌量が減ることでお口の中の細菌の繁殖が増えまして、歯周病や虫歯のリスクが高まり、それとともに免疫力が低下しますので、口腔内の感染に対する抵抗力が減少いたします。ですから、歯周病のいわゆる重症化の防止は、血糖のコントロールの改善につながってまいります。ですから、この辺りを歯科医師会としてもさらに周知させていただきたいと思います。

それとあとは、診療所、病院あるいは先生方には、もう少し気楽に歯科の受診を見直していただけるような連携をさらに顔が見える形で進めていければと考えております。災害に関しましては、まずは備品・備蓄ですね。洗口液のストックをしたり、何が必要なのかというところをまた行政と相談しながら今考えて対策しているところであります。

簡単ですが、これで意見とさせていただきます。以上です。

【田原部会長】 金森委員、ありがとうございました。災害も含め、幅広い今後の課題までお話しいただきまして、本当にありがとうございました。

では続きまして、議事4のプランの進行管理について、説明をお願いします。

【西村統括課長代理】 企画調整担当、西村でございます。北多摩南部地域保健医療推進プランの進行管理につきまして、御説明をいたします。資料4を御覧ください。

本プランの改定に当たりましては、昨年度より協議会、各部会及び幹事会におきまして、委員の皆様から大変貴重な御意見を頂戴いたしました。委員の皆様の御協力をいただきましてこのたびの改定ができましたこと、改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

今年度より、改定後の本プランに基づきまして、保健所及び管内6市で取組を進めているところでございます。今後は、この進捗状況を定期的に把握するといった進行管理を図ってまいります。進行管理の実施体制、評価方法につきましては、毎年度、こちらの協議会及び各部会に報告をさせていただき、御意見を頂戴したく存じます。その際は、プランの改定でもお示しました各取組ごとに設定しました評価指標を用いて実施してまいります。

また、こちらの資料下にスケジュールがございますが、真ん中の令和8年度には中間評価、プランの計画の最終年度でございます令和11年度には最終評価を実施いたしまして、次期プランへの改定に反映させてまいります。

中間評価、最終評価の具体的な評価方法につきましては、別途本協議会にてお示しさせていただきます、御意見を頂戴しながら評価を進めてまいります。

委員の皆様におかれましては、本プランにおける取組の推進におきまして、引き続きの御指導をお願い申し上げます。御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

プランの進行管理につきましては以上でございます。

【田原部会長】 ありがとうございます。

今の説明につきまして、何か御意見、御質問はございますでしょうか。

よろしゅうございますでしょうか。

昨年度から本部会や協議会で皆様に御意見をいただいたプランについて、今後また引き続き各部会、協議会で分野ごとに分けまして、各関係機関、各市の皆様にも御協力いただきながら進行管理していきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きよろしく願いいたします。

では続いて、健康危機管理や災害関係の報告事項に移らせていただきます。では事務局から、続けて、よろしく願いいたします。

【鈴木課長代理】 それでは、報告事項1につきまして、市町村連携課市町村連携担当鈴

木より、感染症対策に係る健康危機管理対策として、御報告いたします。資料5、1ページ目を御覧ください。

保健所におきましては、新興感染症などの健康危機発生時に速やかに対応できる体制を構築するため、北多摩南部健康危機管理対策協議会を設置、運営しております。また、昨年度末に策定いたしました多摩府中保健所健康危機対処計画（感染症編）に定めます、新興感染症発生時対応のための実践型訓練などの事項を協議いただくため、今年度、協議会の部会として、健康危機対処計画（感染症編）推進部会を立ち上げました。

下の実施内容となりますが、健康危機管理対策として、年度当初に防護服着脱訓練を実施いたしました。こちらは、保健所職員向けに毎年実施しているものですが、今年度は新たに圏域市の職員も対象に広げて実施いたしました。こちらは、3日間で約80名の御参加をいただくことができました。また、新興感染症対応のための実践型訓練のため、今年度設置いたしました健康危機対処計画推進部会を訓練の前後で2回開催しました。3月には健康危機管理対策協議会を開催し、圏域の感染症連携体制のさらなる強化を図ってまいります。

次のページを御覧ください。昨年11月26日に実施いたしました実践型訓練の内容について御説明いたします。今年度の訓練は、今年度より第二種感染症指定医療機関となりました東京都立多摩総合医療センターと、都の小児専門医療機関でございます東京都立小児総合医療センターとの合同訓練として実施いたしました。

3の条件設定を御覧ください。対象疾患を新型インフルエンザといたしまして、発生時期は、厚生労働大臣が感染症法に基づく公表を行った直後という発生初期と設定し、圏域内での第1例の親子の患者を取り扱うことといたしました。

4の訓練の流れですが、新型インフルエンザの濃厚接触者となり、保健所で健康観察中の親子が発熱して受診する必要がある生じたという設定で、入院調整を行う情報伝達訓練を医療機関と合同で行いました。その後、保健所においては、保健所を患者自宅と見立てまして、保健所移送車により医療機関に搬送する患者移送訓練を実施し、医療機関では、多摩総合医療センター及び小児総合医療センターにおきまして患者受入訓練を実施いたしました。

それでは、患者移送訓練及び両医療センターでの患者受入訓練の当日の動画を5分半程度ですが、放映いたします。

(動画上映)

【鈴木課長代理】 訓練終了後ですが、参加者により振り返りを実施いたしまして、訓練の反省や今後の対応などを話し合いました。現在、訓練で得られた課題などを整理・検証中

でございますが、その結果はマニュアルに反映するなど、健康危機管理対策協議会を活用して対応の見直しを行い、今後の対応につなげていくこととしております。

【佐藤課長代理】 それでは続きまして、報告事項の2、令和6年度多摩府中保健所における災害対策に係る取組について説明させていただきます。資料6を御覧ください。

まず、取組の背景についてです。令和6年元日に発生した能登半島地震で甚大な被害が広範囲にわたって発生したことは記憶に新しいところかと思いますが、8月には南海トラフ地震臨時情報が発令されたり、各地域に多大な被害をもたらす大型台風が何度も襲来したりするなど、災害対策への取組は急務となっております。保健所といたしましても、これまでも被災地支援等を通じて培ったノウハウ等を生かし、様々な対策を講じてきましたが、新型コロナウイルスを踏まえた感染症対策や、災害時における情報のDX化など、災害対策を取り巻く環境も大きく変化してきています。

こうした状況なども踏まえ、平時から市や関係機関の皆様と顔の見える関係を構築し、連携をより一層強化することを目的として、令和6年度から新しい課、市町村連携課が新設されています。こうした保健所の体制強化を踏まえ、今年度は災害対策に係るPTを立ち上げ、所内体制の強化と市町村支援の充実に向けて検討を実行してまいりました。本日は、それぞれ主な取組について報告させていただきます。

まず1点目、所内体制強化に向けた取組です。災害時における保健所の役割の一つに、公衆衛生的見地から市を支援することがあることから、市が携わる避難所運営の疑似体験を通じて、市の役割や取組内容を学ぶ保健所職員向けの研修を6月に実施しました。保健所職員として、市に対してどのような支援や取組を平時から行うべきかを考えることを目的に実施しましたが、成果といたしまして、所内の様々な職種の約30人が参加し、互いの職種の専門性への理解や相互連携の重要性、平時からの情報共有体制について強化していく必要があるとの認識が高まりました。

次に、1月17日に行った訓練ですが、勤務時間外を想定した災害時の参集及び保健所の災害対策本部の立ち上げ訓練を行いました。これは、発災後の初動対応を訓練することにより、誰もが所属や役職、職種等にかかわらず、円滑に保健所の災害時活動を行えるようにすることを目的として実施しました。所内の保健所職員約40人が参加し、こうした実践的な訓練を積み重ねていくことの重要性や、効率的な情報収集・共有の在り方について、さらなる検討が必要であるとの認識が高まりました。

今年度のこうした取組内容を踏まえまして、次年度以降も、国や都の最新の動きを注視し

ながら、所内横断的に災害対策について取り組んでまいります。

続きまして2枚目、市町村支援の充実についてです。市町村支援を充実させていくためには、まずは各市の現在の取組内容や課題をしっかりと把握する必要があると思い、7月から9月にかけて、市の防災主管課や健康主管課の皆様の御協力をいただいて、調査やヒアリングを実施させていただきました。その結果、各市における先進的な取組は、特色がそれぞれ異なっており、各市それぞれの好事例を圏域全体で共有して互いに取り入れていただいたりすることによって、圏域全体の災害対策の底上げにつなげていくことができるということが分かりました。

一方、課題につきましましては、管内6市である程度共通しておりまして、主なものとして、避難所における初動期の衛生管理対応や、発災72時間後以降の保健活動の具体化、福祉避難所の開設・運営などがございました。こうした課題につきましましては、保健所が行う各市向けの集合研修だけではなく、出張研修等、各市の状況に即した個別支援を充実させていく必要があるとの認識ができました。

続いて、市職員向けの災害対策研修の実施についてです。災害時に市が開設する避難所は、多数の住民の方々がある程度の期間集団生活をする場となることから、感染症対策や食中毒予防にとどまらず、災害関連死を防ぐという観点から、良好な生活環境を確保する必要があります。そのために保健師等専門職の知識は極めて重要ですが、避難所開設時の初動期は、なかなかすぐにこうした専門職を充てることは難しいので、専門職でなくても、初動期に必要な衛生管理を行えるよう、市の避難所初動班、主に事務職員の方々等を対象として、衛生管理に係る研修を実施いたしました。

成果といたしまして、市の事務職員等約80人の方々に御参加いただきまして、トイレの衛生管理の重要性や多職種連携の必要性について再認識できたとの御意見を多くいただくことができました。

今年度の取組を踏まえまして、次年度以降は、各市でほぼ共通課題とされているものについては、出張研修等により各市の状況に応じた支援を充実させていくほか、各市ともこれまで相当に努力されて様々な先進的な取組を進めていらっしゃるのので、そうした好事例につきましましては他市に紹介する機会を設けることで、圏域全体の取組が促進されるように支援していきたいと思っております。

災害対策に係る説明は以上となります。ありがとうございました。

【田原部会長】 ただいま、動画も含めまして、感染症の発生時対応の訓練、また災害対

策について説明をさせていただきましたけれども、何か御質問、御意見などございますでしょうか。

よろしゅうございますでしょうか。

冒頭申し上げましたように、せつかくの機会でございますので、今回の内容だけではなくて、御感想も含めて、皆様からできるだけ一言ずつでも御意見をお話しただければと思っております。本日は、圏域の基幹病院の院長先生など、委員の皆さんも御出席いただいております。まず、武蔵野日赤の黒崎委員、御発言をお願いしたいのですけれども、いかがでございましょうか。

【黒崎委員】 ありがとうございます。黒崎でございます。感染症発生時の対応訓練のビデオは、本当に興味深く拝見いたしました。コロナのときを忘れることなく、次への対応もぬかりなく続けていくということは非常に大事だと思います。

また、災害対策に係る取組も、各市の取組のそれぞれ個性的なものを共有するというのも非常に重要な取組だと思いますし、また個別支援をしたほうがよいだろうというお話もいただきまして、確かにそのとおりで、総論と各論をしっかりと取り組まれているところが素晴らしいと思いました。

私からは以上です。

【田原部会長】 黒崎委員、ありがとうございました。まとめていただきました。

続きまして、先ほどACPのところでお話しいただきましたけれども、杏林の近藤委員、何か追加がございましたら、どうぞお願いいたします。

【近藤委員】 ありがとうございます。新興感染症への対応というの、今お話しいただいたように、こういう訓練をしておくということ、喉元を過ぎると忘れてしまうというのはよくあることですので、思い出して、いろいろなことを準備しないといけないということは、それはそのとおりだなと思っております。

それから、災害対策につきましては、当院は三鷹市にございますが、三鷹市ともいろいろ、医師会を含めて打合せをしたりしているところでございますが、今お話にありましたように、保健所のほうが中心になりましていろいろ検討されて、共通の課題があるということをいろいろピックアップしていただいたというのは参考になるかと思っておりますので、そういった観点も大事にして、さらに取り組んでいければと思っております。引き続きよろしく願いいたします。

【田原部会長】 ありがとうございました。

続きまして、多摩総合医療センターの榎山委員、新興感染症の訓練では本当にお世話になりました、ありがとうございます。そのことも含めて、御意見など、よろしくお願いいたします。

申し訳ありません。では、ちょっと先に進ませていただきまして、慈恵第三病院は、峰事務長様が代理で御出席いただいております。本日の御意見でもよろしゅうございますし、また新病院のことなども含めて、何かございましたら、一言、よろしくお願いいたします。

【峰事務長（古田委員代理）】 慈恵医大第三病院の峰です。よろしくお願い致します。本日は院長が大学の会議で出られないということで、代理で出席させていただいております。私も、今行われていた感染の動画を見ていて非常に当時を思い出すとともに、まだ終わっていないし、まだまだ続くのだなということも含めながら見ておりました。当院も12月の初旬、中旬からインフルエンザとコロナでかなり打撃を受けまして、全部で7病棟を閉鎖するという状況もございました。現在は大分落ち着いている状況でございます。

それと、11月の末には災害のほうで救護所訓練を狛江市さん、調布市さんと合同で行わせていただきまして、感染症も含めた災害対策については、当院も改めて進めていかなければいけないという状況もございました。いかんせんコロナでその訓練も止めていましたので、なかなかうまくいかない点がありましたので、改めて病院としての取組というところを認識させられた次第です。

今、田原部会長からお話がありましたように、現在、病院の建て替えを行っているところでございます。今年の9月に出来上がりまして、26年の1月に開院ということで、建物のほうを順調に今進めているところでございます。こちらについては、感染についてもしっかりと対応できるような造りということにしてございますので、また地域に貢献できる病院ということで取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続き、どうかよろしくお願い致します。

以上です。

【田原部会長】 峰事務長、ありがとうございます。引き続き、よろしくお願い致します。

多摩総合医療センターの榎山委員、よろしくお願い致します。

【榎山委員】 先ほどは失礼いたしました。ちょっとミュートが外れなくて、発言できませんでした。

先日の訓練には、多数の保健所関係その他の方々に御出席いただきまして、ありがとうございました。つい最近のことではあるのですけれども、忘れていたことも多くて、しばしば

繰り返さなければいけないのだなということを改めて感じました。

ただ、恐らく封じ込めのフェーズというのは極めて短い期間で、最も我々が苦労したのは、その後の蔓延期と、病床確保だとか、あるいはその辺りの情報共有だったと思うんです。そういうことに関する訓練も何らかの形で平時からやらなければいけないのではないかと、いうことを改めて感じたところです。

以上です。ありがとうございました。

【田原部会長】 榎山院長、ありがとうございました。御意見をいただきましたように、皆さん方からも、初期以降の情報共有や様々な対応が大事だというお声も聞いておりますので、今後、毎年度、訓練も含めて危機管理の協議会は進めてまいりますので、御意見を十分に受け止めて実施してまいりたいと思っております。ありがとうございました。

失礼いたしました。では、先ほど申しましたように、医師会の先生もたくさん御出席いただいております。

まず、武蔵野市医師会の中嶋委員、いかがでしょうか。よろしく申し上げます。

【中嶋委員】 こんにちは。私も、新興感染症発生の対応訓練のビデオはかなり印象深く見ていました。これも前から言っていますが、これは今回府中市でやられているので、北多摩南部医療圏の各自治体で、災害拠点病院と医師会が多摩府中保健所のオーガナイズで、こういうことを輪番制で毎年やっていくべきではないかなと思っております。

あと、災害のほうですが、御指摘のとおり、総合医療訓練でやっているのは、発生から72時間以内の超急性期の緊急医療救護所における傷病者の搬送とか、情報共有とか、そういったものが重点的にやられていまして、72時間、急性期以降の、特に避難所における多職種による巡回診療だとか、そういった面はほとんど行われていないので、こういったところへ保健所の方に介入していただいて、ちょっと我々のお尻をたたいていただければ、話が進むのではないかと考えております。よろしく願いいたします。

以上です。

【田原部会長】 中嶋委員、ありがとうございました。私どももその方向性も考えておりますので、ぜひまた先生方の御協力をよろしく願いしたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、三鷹市医師会の内原委員、いかがでしょうか。

【内原委員】 三鷹市医師会の内原です。訓練の動画を見て、また改めてコロナの第1波から第3波ぐらいのときの状況の大変さを思い起こしました。それで、そのときに役に立つ

たのは、田原所長との電話でのホットラインがございましたので、いろいろ初期から情報もいただいたりしたのが非常に今後の対策を医師会で作成するのに役に立ったなということを改めて思い起こしました。

また、地震に関しては、どのような地震が起きるか分からないわけで、その中でどうやって訓練するかということで、医師会あるいは行政と協議しているところですが、能登の地震を見ても、急性期を過ぎた後の災害関連死というのですか、それが非常に多いので、2週間、3週間たった後のフレイル予防とか、感染予防とか、その辺の対策をもうちょっと練り直して進めていく必要があるのではないかなと思いました。

以上です。

【田原部会長】 先生、ありがとうございました。ちょうどコロナの発生から丸5年がたったところでございますけれども、本当に顔の見える連携がその電話のホットラインにもつながったと思っておりますので、情報共有につきましては、電話も含めて、今後様々なDXも駆使しながら検討してまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

続きまして、調布市医師会の西田委員、よろしく願いいたします。

【西田委員】 お世話になります。私のほうから、まず1月9日に原田課長の下で行われた摂食・嚥下のシンポジウムでは、本当に多方面から多くの方々にお集まりいただきまして、非常に有意義な議論ができたと思っています。この場を借りて感謝いたします。

それで、先ほど金森先生がもうおっしゃっていたことなのですが、この超高齢社会の中で、高齢者の内因性の肺炎をいかに予防するかというのはすごく大事なことで、それがQOLを維持することにもつながるわけです。そういった意味での食支援とか、摂食・嚥下機能支援といったところで、ここは医科、歯科、STさん、管理栄養士さん、様々な職種が絡んだ、まさしく多職種連携の典型的な分野なわけですが、どうも近年、歯科の先生方はすごく熱心にやられるのですが、医科のモチベーションがちょっと低くて、これはまずいなと私は地域で感じております。ここはどんどん伸ばしていかないといけない、とても大事なところだと思っております。

それから、災害のところなのですが、調布市は、ちょうど今年度は防災計画の見直しということもございまして、同時に我々はボトムアップのような形で厚労省のモデル事業を利用させていただいて、地域BCPの研究会のようなものを行っているんです。そこに行政から多職種、いろいろな、消防とか保健所の方にも入っていただいて、議論をずっと続けているわけですが、その中で、防災計画というのは、主として最初の72時間のと

ころなのですよ。これは先ほど内原先生が言われたように、そこから先をどうしていくのか。地域BCPとして、例えば避難所に行けない方々をどうやって支えていくとか、そういったことをきちんと計画立てていかなければいけない。福祉避難所をどうするのかとか、効率のよい安否確認はどうやったらいいのかとか、あとは、国からも義務づけられました個別避難計画をどのようにどういうレベルの人たちに誰がつくっていくのか、どうやってその更新作業をやっていくのかということもきちんとこれからやっていかないといけないということを思っています。

東京都も、この地域BCPの事業には乗り出していて、令和7年度からモデル事業も開始しますので、保健所のほうもぜひぜひこの分野については力を入れていただいてというか、御支援、御指導をぜひお願いしたいと思っております。

以上でございます。ありがとうございます。

【田原部会長】 西田委員、ありがとうございました。先月実施いたしました摂食・嚥下のシンポジウムも含めて言及いただきまして、ありがとうございます。また、多職種連携や、皆さんからも御意見をいただいているように、避難所での衛生管理、要介護者の問題など、多々ございますので、また引き続きお力添えいただければと思います。ありがとうございます。

続きまして、小金井市医師会の小松委員、よろしくお願ひいたします。

【小松委員】 小金井市医師会の小松です。小金井市も医師会も、災害対策は非常に重要な課題であると理解しております。小金井市は災害拠点病院を持ちませんので、北多摩南部の医療圏の中でも一番災害に弱い地域なのではないかなと考えておまして、どうしても72時間以内の救急医療救護所での対応が主体になるのですが、1月13日にも4か所、小金井市には救急医療救護所が開設されるのですが、そのうちの一つである歯科大学の多摩クリニックのほうで、参集を兼ねた災害訓練を年明けの連休のときに1回やったんです。そういった対応はこれからも非常に重要ではあるのですが、そのほうに力が入ってしまう一方で、なかなか避難所等の対策が十分できていないと感じております。

能登半島地震における避難所のトイレの写真とかを見せていただいたこともあるのですが、なかなかちょっと正視できないぐらいの状況の写真を拝見したりして、そういったことは例えば小金井市内の避難所でも同様のことが起こる可能性は十分ありますので、そのトイレの状況に限らず、衛生管理というものにも行政と医師会としても力を入れていく必要があると感じておりますので、保健所の皆様の御協力をぜひ賜りたいと思います。ど

うぞよろしくお願いいたします。

以上です。

【田原部会長】 小松委員、ありがとうございました。避難所に関しては、各市におかれましても来年度に向けて様々な施策を盛り込んでいただいております。東京都でも、先日発表された予算でも相当な力を入れておりますけれども、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

では続いて、狛江市医師会の片山委員なのですが、ちょっと本日はメールでの御意見ということなものですから、事務局のほうからよろしくお願いいたします。

【原田歯科保健担当課長】 では私のほうから、片山委員からの御意見を紹介させていただきます。議事の1、糖尿病医療連携推進事業についての御意見を頂戴いたしております。以下です。

平成17年以来連携事業は19年間継続しています。当初の目的は、糖尿病医療におけるかかりつけ医機能を向上させることで、支援カードや紹介・逆紹介のマップの作製、医療者向けセミナー、市民講座などを通して顔の見える関係の構築も果たし、他の地域からもモデルケースといわれるくらいの成果を上げてきました。一方で今の課題は、腎症重症化予防事業です。各市で実施はしているものの対象300人に対しエントリーは15人前後、指導も業者に丸投げで質が悪いだけでなく年ごとに単年終了でありアウトカムにつながらない状況です。次年度からは保健所が作成したヒアリングシートをもとに実効性のある事業に大幅に変更していく予定です。

狛江市はそれにさきがけ、パイロットスタディーとして、エントリー基準の見直し、指導プログラムの修正、指導に市の保健師の参入、主治医へのフィードバックを実施、集団指導や調理実習、ワールドカフェの実施、向こう5年ほどの追跡・・・でアウトカムの確認などを行い、将来的には二次保健医療圏全体の統一した事業展開に昇華できるよう事業展開をしていく予定です。

以上でございます。

【田原部会長】 ありがとうございました。糖尿病の専門医の片山先生のちょっと厳しい御意見もございましたけれども、本当に基礎疾患としては重要な疾患でございますので、改めて皆様とともに事業を進めてまいりたいと思っております。ありがとうございました。

続きまして、多職種連携のお話も出ておりますけれども、府中市薬剤師会の中村委員、一言、よろしくお願いいたします。

【中村委員】 お願いします。私のほうから、感染症対策のビデオを大変興味深く、あと緊張感を持って見ていました。この冬、インフルエンザが大流行しまして、年末年始の休日・夜間診療でも毎日300人以上、ほとんどがインフルエンザの患者さんでありました。この菌株はp d m 0 9型という、2009年にはやったいわゆる新型インフルエンザだった、十五、六年前にはやったものが、これだけ期間を経てまた発動してきたわけですが、さらに進化した新型インフルエンザ株が今後も出ることはもう容易に想定できる事態でありますので、この対策に関しては非常に現実味を帯びていると、身をもって緊張感を感じた次第であります。対策を今後もどうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

【田原部会長】 中村委員、ありがとうございました。

では続きまして、看護管理者連絡会の代表ということで御参加いただいております杏林大学の根本委員、いかがでしょうか。

【根本委員】 いつもお世話になっております。根本と申します。

定期的に看護管理の連絡会を開催しておりまして、この会議で話し合われたことというか、情報共有もさせていただいております。今後も、先ほど災害のことで少しあれだったのですけれども、コロナの感染に関しては、特に看護師の欠員に対して医療圏のほうで連携を取るということはなかなかなかったのですけれども、大規模災害が起きたときの看護職員の欠員に対する連携というものを今後少し考えていきたいなと思います。すみません、ちょっと発言が前後しましたけれども。

【田原部会長】 根本委員、ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

続きましては、学識経験という立場で、公衆衛生の立場で、同じく杏林の吉田委員、よろしくお願ひいたします。

【吉田委員】 よろしくお願ひします。私も最初に、まず感染症の動画を拝見させていただきまして、定期的な実践的な訓練を行うということは、関係医療機関との連携の上で非常に重要だと思いました。ぜひこれは長期にわたって定期的につけていただきたいと思いました。といいますのも、今回のCOVID-19の一連のことを経験した方がたくさんおりますので、これをぜひ、これから新しく入ってくる保健所のスタッフはもちろんですし、医療機関のスタッフたちにも、これを経験した人たちがそれを伝えていくという意味でも、この訓練は非常に重要ではないかなと思いました。

それから、災害対策につきましても、常に医療の現場では多職種連携が重要です。それぞれの職種の職務をお互いが理解することでそれぞれの職務の能力を最大限に活用できるという意味で、非常にこの多職種連携は重要だと思いますし、災害というのは準備ができないときに突然発災しますので、そのときにお互いの職務を理解することによって、限られた人的資源をお互いの職務を有効に共有しながら進めていくというのは、非常に重要ではないかと思いました。

以上です。

【田原部会長】 吉田委員、ありがとうございます。

では続きまして、公募委員の横山委員、いかがでございましょうか。

【横山委員】 ありがとうございます。公募委員の横山です。医療安全のACPのところで、感想ですけれども、お話しさせていただきたいと思います。

会議の中で杏林の先生のお話でございましたが、ACPを医療から福祉へ広げていきたいというお話がとてもうれしく思いました。一滴の滴が水面に落ちて波紋が広がっていくように、ACPという取組が広がっていくといいなと思っています。

私は、成年後見制度の中での市民後見人のトレーニングを受けておりますけれども、成年後見は司法と福祉が関わっている現場ですけれども、御本人がどうやって生きていきたいのかということや成年後見の中から権利擁護として取組を頑張っておりますけれども、ACPとして医療や福祉の皆様と連携できることもまだまだたくさんあると思いますし、共有できることとか、対話できることとか、連携できることもたくさんあると思いますので、今後何か接点が増えていくといいなと思いました。ありがとうございます。

【田原部会長】 横山委員、貴重な御意見を本当にありがとうございます。ACPは、私も思いますけれども、自分事でございますので、広く市民の皆様、また将来的には少し教育現場などでも広めていってもらいたいのかなという感想を持っております。本当にありがとうございます。

皆様の進行の御協力をいただきまして、時間がまだ少しございます。あとは官公庁の皆さん方でございます。市の代表として、三鷹市、狛江市の課長さん、部長さんに出ています。もしよろしければ、お一言、三鷹市は白戸課長さんに出ていますので、御意見をいただければ恐縮です。よろしく申し上げます。

【白戸健康推進課長（小嶋委員代理）】 三鷹市の白戸でございます。本日はありがとうございます。今日は、感染症の動画も見せていただきまして、私どもにとっても、現場の

動きが分かりやすく、非常によかったと思っております。

感染症の関係では、今年度、国において新型インフルエンザの行動計画を閣議決定されて、東京都においても現在、行動計画を策定中だと思いますけれども、来年度には市においても行動計画を策定予定でございますので、本日もご紹介のありました事例なども共有させていただきながら、また、皆様と意見交換をさせていただきつつ、現場における具体的なイメージを想像し計画をつくっていきたいと思っておりますのでございます。

それから、災害の関係でございますけれども、こちらも御説明をいろいろありがとうございました。こちらにつきましては、圏域の6市を回っていただいて、詳細にお取りまとめをいただきました。この資料は大変参考になる資料でございますので、これからの災害対策に生かしていければと思っております。

それと同時に、本日は委員で御出席の杏林大学医学部附属病院長の近藤先生、三鷹市医師会会長の内原先生を始め、医師会、歯科医師会、薬剤師会の皆さんと一体となって取り組まないといけないのだなということを改めて認識したところでございますので、引き続き圏域の皆様と意見交換をさせていただきながら取組を進めていければと思っております。

本日はありがとうございました。

【田原部会長】 白戸課長、ありがとうございました。広範囲にわたりまして御意見をいただきました。

宗像部長、よろしゅうございますでしょうか。一言、お願いいたします。

【宗像委員】 狛江市の宗像でございます。いつも大変お世話になっております。

今日いただいたお話で、保健所さんにおける災害対策に係る取組で、市町村支援ということで、避難所開設時からの感染症対策の部分でのお話で、とても大事な部分だなど改めて認識いたしました。例年、避難所の設置訓練等をやって、そのときに感染症対策なども言葉では意識しているのですが、なかなか具体的な部分まで考えが回っていないかなという反省がありますのと、あとトイレの衛生管理、これが非常に重要であるということを改めて認識できました。ぜひ今後とも、市町村職員向けのこういった研修を継続していただければと思います。その部分を、研修を受けた職員に持ち帰ってもらって、現場でぜひ生かしていきたいと思っております。今後ともよろしく申し上げます。ありがとうございました。

【田原部会長】 宗像部長、ありがとうございました。

府中消防署長の代理で長谷川課長様に出させていただいております。コロナのときには救急隊の方には大変お世話になりまして、本当にありがとうございました。もし一言いただければ

ば幸いです。

【長谷川警防課長（沼尾委員代理）】 府中消防署です。昨年、救急出場が過去最多を更新しまして、93万5,000件を超える出場が速報値で出ております。逼迫する救急需要の問題と、あと災害時の対応について、皆様方と協力しながらこれからも進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

【田原部会長】 ありがとうございます。今年の年末年始も本当に大変だったと思います。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

皆様の御協力をいただきまして、御出席の全ての皆様から御意見などをいただくことができました。本当にありがとうございました。

この後、話があると思いますけれども、このメンバーでは最後の部会となります。本当にこの2年間、皆様方にお世話になりまして、ありがとうございました。

では、事務局にお返ししたいと思います。

【原田歯科保健担当課長】 田原部会長、どうもありがとうございました。

本日の内容につきましては、来年度の地域保健医療協議会に報告させていただきます。

先ほど部会長よりお話がありましたが、委員の皆様におかれましては、この3月末をもちまして2年間の任期を迎えることとなっております。この間、貴重な御意見をいただき、感謝いたします。本当にありがとうございました。

それでは、以上で本日のシステム化推進部会は終了となります。ありがとうございました。

閉会：午後2時50分